

貸し出し絵本 あらすじ集① こじか組

 <p>人間と仲良くなり たい赤鬼が人間と 仲良くすることに 失敗して親友の青 鬼に相談します。 そこで青鬼が考え た作戦は、自分が 人間の村で…</p>	 <p>けいていーはキャタピ ラについている赤いトラ クターです。除雪機をつけ ると、雪をかきのけるこ とができました。でも、 雪の少ないうちはけい ていーはじっと待ってな ければいけません。ある 日大雪がふり、ほかの雪 かきトラックは動けな くなりました。</p>	 <p>「みるな」と、あね さまからかたく言わ れた12番目のくら の戸を、ついにあけ てしまった若者は… …。 日本の四季が息をの む美しさで描かれた 昔話絵本です。</p>	 <p>たいは、なかよしのこ うたど、すごいけんか をした。けりをいれて、パン チした。さいごにこ うたどつかれて、しりもちをつ いた。くやくして、泣き ながら走ってうちに 帰った。こうたがあや まってくれたけど、まだ けんかの気持ちは終 わらない…。</p>	 <p>病気で空を飛ぶこと のできない子どものた めに、北の国に帰る時 期を遅らせていたお おはくちょうの家族。 しかし旅立ちの日 は近づいています。 そして、おとう さんは子どもをお いていくことに…。</p>
 <p>病気のお母さんに食 べさせようと、3人 の兄弟たちは、やま なしをもぎに出かけ ます。道すがら、ひ とりの婆さまに声 をかけられますが、 上の2人は婆さま の話の聞きすに進 み、沼の主の飲み 込まれてしまいました。</p>	 <p>サルが山からおりて きて、海に釣り糸を たらすと、大ダコが 現れて糸を引っばり 、竿をとろうとしま す。そこで2匹の引 っぱりあいに、それ ぞれが助けをよび、 引っ張り合いが始 まります。</p>	 <p>おじいさんの大切な おばさんを殺したた ぬきの仇をとるべく 、勇敢で賢いうさぎ は、あれよこれよと たぬきに仕返しをし ます。たぬきはうさ ぎの言うことを信じ て、痛い目に遭い、 最期は…。</p>	 <p>くまさか先生はある とき授業の終わりに 宿題を出します。ど んなどろぼうをし てくるのかと思いき や、自分のうちから 取ってきたとか、あ りのたまごをどろぼ うしてきたとか…</p>	 <p>帰り道の途中で大き なキャラメルを見つ けたぺっちゃんは大 喜び。妹のなっちゃん がこないうちにと 夢中でなめている と、3びきの大きな 黒ありに取り囲まれ て…。</p>
 <p>ふしぎな少年の勇 気と友情が、人々に 恐れられていた竜 の心をなごませま す。気品ある絵が、 愛と善意の世界の 奥ゆきを深めてい ます。</p>	 <p>老人があらわれて、 ひとつぶのめば子 どもがひとり生まれ るといふ小さな丸 薬を九つくれました。 おばあさんがその 丸薬をのむと、ある 日とつぜん、九人 のあかんぼうが 生まれました。</p>	 <p>正月の餅を買うた めに、笠を持って 町に売りに出掛け ました。戻ってくる 途中、野原に立っ ているお地蔵さま に雪が積もっている のを見て、持って いた笠を全部かぶ せてあげました。 翌朝、どこからか 樞引きの音が…。</p>	 <p>消防署で働く彼ら の姿は、いつ何 度読んでも胸が ドキドキするの です。正確な描 写、迫力のある スピード感、そ の上愛嬌まであ って、子ども たちが本当に夢 中になるのは小 さな男の子の雄 姿なんですね。 胸がスカッとし る1冊です。</p>	 <p>かあちゃんに毎日 おこられてばかり のけんちゃん。子 どもの気持ちを ていねいに描き、 毎日の中にある 大切な自分の 気持ち、家族を 愛おしく想う 気持ちを発見 させてくれます。</p>
 <p>ふぶきの夜ゆきお んなに出会い、父 親を失ったみのき ち。意気消沈した みのきちは、旅を する娘と幸せにな ります。その娘の 正体は…。</p>	 <p>貧しいワルターは リンゴの木を一本 持っていましたが、 実が一つもな りません。「ひとつ でいいから実が なりますように」と ワルターは願 います。その願 いは叶って…。</p>	 <p>春に生まれ、夏に 大きく成長し、秋 に紅葉となり、冬 には枯れゆく、そ して春には新た な命の営みが始 まる、命が巡り 巡っていくことを 優しく語りかけ てくれるような 物語です。</p>	 <p>雪深い山里で一羽 の鶴が翼に矢をう けて、苦しそうに しています。そこ を通りかかった、 若者の男が、矢を 引き抜き、介抱し てあげました。そ の晩、家の戸の 前に美しい女 が…。</p>	 <p>ハリーは黒いブチ がある白犬。なん でも好きだけど、 お風呂は大嫌い。 ある日、お風呂 にお湯を入れる 音が聞こえると、 ハリーはお風呂 のブラシを持って 逃げだします。</p>
 <p>ケーブルカーの歴史 を綴り、廃止運 動を乗り越えて存 続するに至った ケーブルカーを メーベルという主 人公を通して描 いたお話です。</p>	 <p>働きすぎて、目を まわした信号機 のびかくん。さ あ、街は大混 乱。人も自動車 もごちゃごちゃ になります。長 新太のユーモア たっぷりに細かく かきこまれた 信号機 の1日を描 きます。</p>	 <p>ぼくはおふるが 大好き。あひる のブッカをつ れてはいると、 かめやペンギン、 オットセイや くじらまで登 場して……。子 どもの空想の 世界が描か れていますよ。</p>	 <p>ある日、ぼうや は、わゴムがど のくらいのび るか、ためし てみることに しました。部屋 からそとへ、 バスで、汽 車で、飛行機 で、わゴムは どんどん、ど んどんのびて …。</p>	 <p>おたんじょうびに 届いたプレゼント。 びんにはいった おたまじゃくし !! しかし、びん の中から台所 のながし、お 風呂の中、そ してもうど みてもアパ ートに いるのは無 理なほど 大きくな ってしま います。</p>
 <p>懐中電灯でほっ ぺたを照らすと 赤く見えるのは、 なぜだろうか。 やさしい実験 をおりまぜな がら、血の動き をわかりやす く描き、血と 生命の大切 さを伝えます。</p>	 <p>「かがみよ かが みよこのよ で いちばん うつくしい のはだあれ？」 おきさきさま は、まいにち かがみにむ かってたずね ます。</p>	 <p>冬のあいだ、す っとねむって いるリスとハリ ネズミとクマは、 雪を見たこと がありません。 白くて、しめ つくて、つめ たくて、や わらかい…。 雪を見るた めに、冬が くるまで、 おきてい なくちゃー!!</p>	 <p>お母さんはあや ちゃんが生まれ た時のことを 話してくれま す。赤ちゃん 誕生をめぐる 家族の期待、 喜び、感動を、 しみじみと温 かく描きま す。</p>	 <p>動物たちが町へ 買い物に行きま した。チータは 蝶ネクタイ、シ マウマは羽付 いた帽子、ワ ニは……。買 い物を終えた みんなは、動 物園のカモシ カの家へい きました。一軒 ごとの店の 佇まいと動物 の表情が楽 しい絵本です。</p>

貸し出し絵本 あらすじ集② こじか組

 <p>八郎</p>	<p>八郎は榎の木ほどもある大男でしたが、もっともっと大きくなりたいと願います。村を守るために海に入り、波と闘い、海に沈みながら、八郎はなぜ自分がこれまで大きくなかったのかを悟ります。</p>	 <p>ひばりの矢</p>	<p>むかし、天にあったひばりの巢。悪い黒雲おやじに子どもをふみ殺されたひばり一郎次は弓矢で…。麦になったというひばりの矢の物語。</p>	 <p>火の鳥</p>	<p>夜中、妹のあさを小便に起こしたとき、夜空いっぱい青白くもえる流星群をみた。火の鳥が飛んだのだ。その年はキキンになる。あさは火の鳥を退治せねばと山へと入ったが……。</p>	 <p>半日村</p>	<p>一日のうちに半日しか日のあたらない半日村。この貧しい村に少しでも日があたるようにと、村の後ろの山をけずろうと決心した一平。始め村人は笑っていたが、次第に協力してとうとう……。</p>	 <p>猫山</p>	<p>イワナを釣りに来て山奥へ迷いこんだ三平は山中にぼっと明るいまどを見つけた……。力を合わせて猫ばばを退治する痛快な絵本。</p>
 <p>花の山</p>	<p>おなごわらしのあやは、山菜を取りに行き迷い込んだ山奥で、目もさめんばかりの一面の花を見る。優しいことをすれば、花がひとつ咲く。うそではねえ。本当のことだ……。</p>	 <p>ふきの花</p>	<p>春、ふきのとうが芽を出すと、大男の大太郎はふきという女の子のことを思い出す。ふきは、おとうを殺した青鬼に戦いをいどんだ。その時なだれがおきて……</p>	 <p>3匹のくま</p>	<p>森で迷子になった女の子は、小さな家を見つけます。食堂には大きなお椀、中くらいのお椀、小さなお椀に入ったスープが。女の子は小さなお椀のスープをぜんぶ飲んでしまいます。実はこの家は3匹のくまの家でした……。</p>	 <p>くるんばのようちえん</p>	<p>くるんばは、ひとりぼっちの大きなぞうです。ピケットやさん、靴屋さん、ピアノ工場、自動車工場…色々な仕事場で一生懸命に働きますが、つくるものが大きすぎて失敗ばかり。そんなときくるんばは、子どもがたくさんいるお母さんに出会います。</p>	 <p>わらってよカバのはいしゃさん</p>	<p>このごろ、こわい顔して愛想のよくないカバの歯医者さん。患者さんは歯がいたいけど、カバさんはこわい顔。どうしたのでしょうか。</p>
 <p>こすずめのほうけん</p>	<p>「ぼくはひとりで、せかいじゅうをみてこられる」でも、こすずめは、遠くまで行って、迷子になってしまいました。すこしずつ羽根がいたくなってきました。</p>	 <p>ねずみのあいしやさま</p>	<p>大雪が降る夜。ねずみのおいしやさまが寝ていると、リスさんから電話がかかってきました。「ぼうやがかせをひいて、ねつをだしていますから、すぐきてください」。奥さんに心配されながら、ねずみのおいしやさまはスクーターに乗って出かけていきます。</p>	 <p>さるすず</p>	<p>「さるのおしりはぬらしでも、じぞうのしりはぬらすなよ」おじいさんをお地藏様とまちがえたおさるたち、川向こうのお堂へおまつりしようと、はやしうたをうたいながらおじいさんをかかえて川を渡っていき……。</p>				